

# お手入れ方法

## 扉・金物のお手入れ

- ホコリは、水に浸し固く絞った布で汚れを落とした後、柔らかい布で乾拭きしてください。
- 手垢・泥汚れなどの落ちにくい汚れは薄めた中性洗剤に浸した布で落としたのち、洗剤が残らないよう乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。
- 鉛筆で書かれた汚れは、消しゴムで軽く消してください。
- 水性ペンで書かれた汚れは薄めた塩素系漂白剤に浸した布で軽く叩くように拭いたのち、水に浸し固く絞った布で軽く叩くように拭いてください。
- お茶等がかかった場合は直ちに水に浸し固く絞った布で叩くように拭いたのち、塩素系漂白剤を浸した布で軽く叩くように拭き、再度水に浸し固く絞った布で軽く叩くように拭いてください。
- ソース・コーヒー等がかかった場合は、塩素系漂白剤に浸した布で軽く叩くように拭き、再度水に浸し固く絞った布で軽く叩くように拭いてください。
- 表面がクロス仕上げの扉のお手入れは、壁紙（クロス）と同じ方法で行ってください。
- 表面が襖仕上げの扉のお手入れは、はたき等でホコリを落としてください。襖は『紙』のため汚れを落とすことはできません。扉の開閉の際は、汚れや水分が付いた手で襖紙に触れないようにしてください。
- ガラスは表面にキズが付くと割れるおそれがありますので、水に浸し固く絞った柔らかい布で汚れを落とした後、柔らかい布で乾拭きしてください。
- ガラスのフィルム面は、水に浸し絞った柔らかい布で一定方向（往復しない）に強く擦りすぎないように汚れを拭き取ってください。無理に擦るとフィルムにキズが付く恐れがあります。
- ゼンスタイルの採光部分と鏡面仕様のルチェンテの扉の汚れは、水に浸し固く絞った柔らかい布で汚れを落としたのち、柔らかい布で乾拭きしてください。  
(固いもので擦るとキズが付く恐れがあります。柔らかい布をご使用ください。)
- 油性マジック・クレヨンで書かれた汚れは、完全に取ることはできません。
- ハンドル・引手・取手表面の清掃は、乾燥した柔らかい布で定期的に軽く拭いてください。汚れがひどい場合は水または中性洗剤を水で5～10%程度に薄めて浸した布をよく絞ってふき取り、乾いた布で乾拭きしてください。

## 鍵の抜き差しがスムーズではない・重いときのお手入れ

- キーの凹凸の山形に沿って鉛筆で黒く塗り、鍵穴に入れて、数回抜き差ししてください。  
1回でスムーズにならない時は同じ方法を繰り返してください。  
※抜き差しがスムーズになりましたら、キーの黒い粉を拭き取ってください。  
※上記のほか抜き差しをスムーズにする錠前潤滑油が市販されています。

## 無塗装仕上げの取り扱いについて

- 水濡れ厳禁
- 無塗装のシナ杢目表面材は大変デリケートです。皮脂や水滴がついてしまうとシミになり拭き取ることができませんのでお取扱いには充分ご注意ください。
- 水に濡れたり、汚れを水拭きされますと乾いた後に塗装してもシミができますのでお取扱いには充分ご注意ください。
- 生木を使用しておりますので紫外線を含む自然光により色の変化が生じます。
- 下処理をせずいきなり塗装すると表面材自体に毛羽立ちが生じる事があります。より平滑に仕上げるためには塗装前に番手が細かいペーパーで軽く木目に沿って研磨することをお奨めいたします。
- 現場塗装の際、必ず木目方向に沿って塗装してください。板の上部から下部まで一度に塗ってください。途中で塗り直すとその部分が濃くムラになることがあります。また木目方向に直交(横向)に塗装はしないでください。塗料が乾燥した後、ハケ目など筋が出ます。
- 塗料を一度に厚く塗ると表面材自体に含まれる空気によって塗料が白化する事があります。より綺麗な仕上がりにするためには2～3回程度薄く重ねて塗ることをお奨めいたします。
- 自然塗料(オスモ・バトンなど)は非常に浸透性が高くムラになりやすい為、必ず下塗り⇒中塗り⇒仕上げの工程で塗装してください。



## 注意事項

- 酸性・アルカリ性の洗剤、シンナー・ベンジンなどの有機溶剤は使わないでください。変色や変質、シートの膨れや振れ、塗装・メッキの剥がれや錆の原因になります。
- ポスター類等の固定などで長時間粘着テープを貼り付けるのはやめましょう。表面材が剥がれたり汚れ、破損の原因になります。
- ストーブなどの熱源を近づけないでください。また、直接熱風をあてないでください。扉が変形する恐れがあります。
- 扉に付いているハンドル・引手・取手には保護膜が塗られており、それが変色を防いでおります。表面をキズ(※1)つけたり、汚れや家庭用洗剤(※2)が付着したまま放置しますと変色につながりますのでご注意ください。  
※1…金属同士の衝突(例えば指輪・時計など) ※2…アルカリ性・酸性のもの

# メンテナンス 各種金物の調整方法

## 1 インセット枠の調整

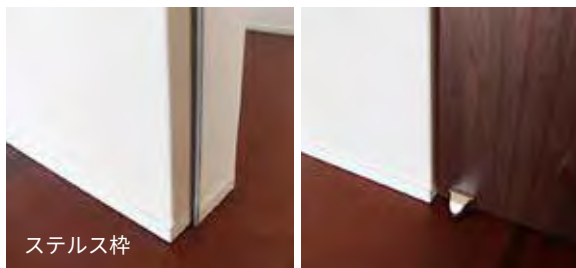
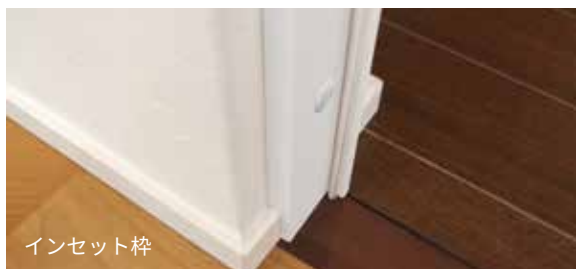
## 2 出入り口片開き戸

## 3 引き戸

- ①上吊戸の吊車調整 ②床付レール引き戸の戸車調整
- ③引き戸鎌錠受け調整

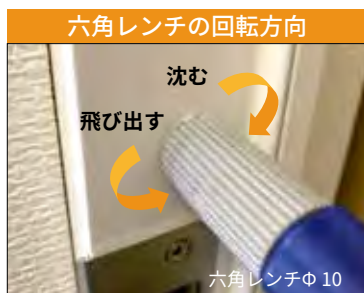
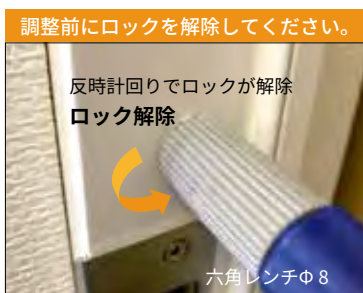
## 4 クローゼット

- ①固定折れ戸金物調整 ②フリー折れ戸金物調整
- ③物入両開き戸・片開き戸の丁番調整



## 1 インセット枠の調整

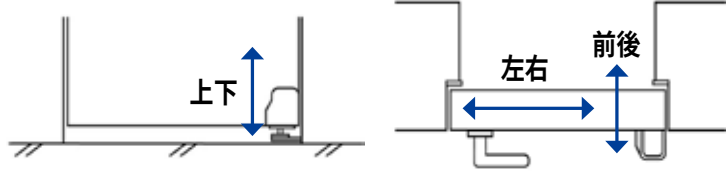
- ◆ 調整は六角レンチΦ8にて必ずロックを解除してから行ってください。
- ◆ 調整は六角レンチΦ10にて調整範囲±2.0mm内（12mm～16mm）で行ってください。  
※インセット枠出荷時の見付寸法はクロス施工後14mmの設定となっております。  
※16mm以上飛び出すと勘合しなくなり、はずれる恐れがあります。
- ◆ 調整後は六角レンチΦ8にて必ずロックをしてください。
- ◆ 調整は3WAY六角レンチ [P.357](#) もしくは市販品の六角レンチΦ8、Φ10で行ってください。



## 2 出入り口片開き戸

### フルハイトヒンジの調整

- ◆ ドアを閉めた状態で3方向の調整が可能です。  
※左右・前後調整用の固定ねじは2回転以上は緩めないでください。  
※部品の各調整に電動ドライバーを使用しないでください。  
部品を破損する恐れがあります。



#### 【1】上下調整 (下ヒンジで調整) ※写真はR勝手となります。



#### 【2】左右調整 (上・下ヒンジで調整)

①ねじを緩める



②調整する



③ねじを固定する



#### 【3】前後調整 (上・下ヒンジで調整)

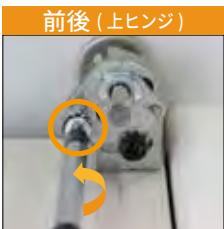
①ねじを緩める



②調整する



③ねじを固定する



#### ラッチ受けの調整

【手順】  
プラスドライバーで  
ねじを回して調整  
を行う。



#### ヒンジ用入隅レンチ



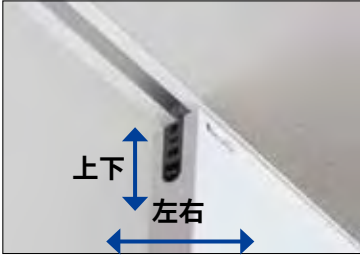
1 部に 1 つ 付 属 し ます。

### 3 引き戸

※調整には電動ドライバーを使用しないでください。  
部品を破損する恐れがあります。

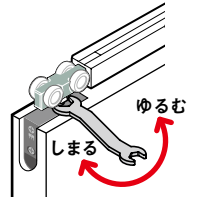
#### ①上吊戸の吊車調整

上下・左右方向の調整が可能です。



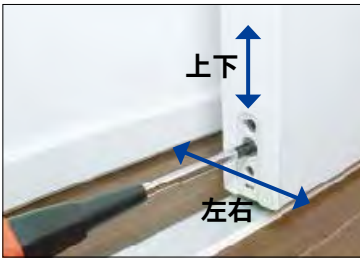
#### ※吊車調整前に

ソフトクローズ対応の吊車では上下左右の調整前に跳ね上がり防止ナットをスパナで緩めてから調整を行ってください。(調整後はナットを締めてください。)



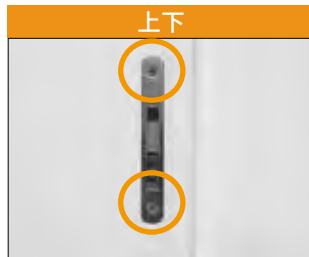
#### ②床付レール引き戸の戸車調整

上下・左右方向の調整が可能です。



#### ③引き戸鎌錠受け調整

上下・前後方向の調整が可能です。

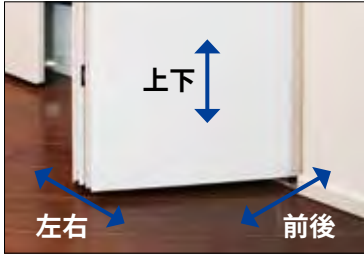




## 4 クローゼット

※調整には電動ドライバーを使用しないでください。  
部品を破損する恐れがあります。

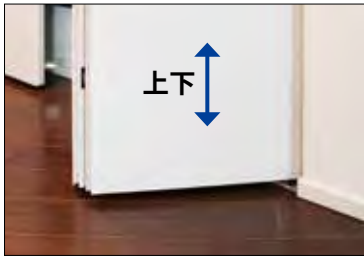
### ①固定折れ戸金物調整



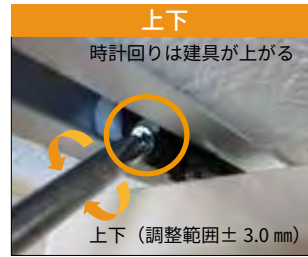
上下、左右、前後の3方向の調整が可能です。



### ②フリー折れ戸金物調整



上下方向の調整が可能です。



### ③物入両開き戸・片開き戸の丁番調整



上下、左右、前後の3方向の調整が可能です。





## ドアの取り外し方 フルハイトヒンジ

① ヒンジカバーを手前にスライドして外します。

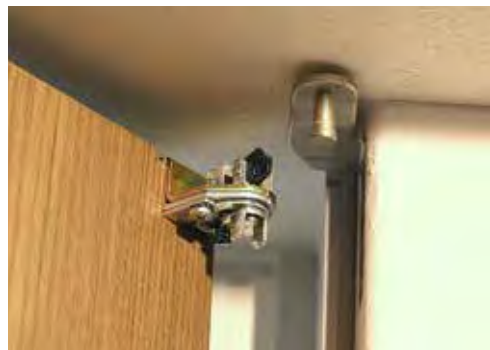


※下側も同様にヒンジカバーを外しておきます。

② ストッパー（ブラック色）を手前に引いて外します。



③ 扉を 45°以上開いた状態にして上の方を持ち、ヒンジ側へ押しとヒンジ軸から外れます



④ 下側は扉をそのまま持ち上げてヒンジから抜きます。

※扉を吊り込む場合は上記手順を③→②→①の順に行ってください。